

# tokyo

あなた  
君の輝く瞳に逢いたい…

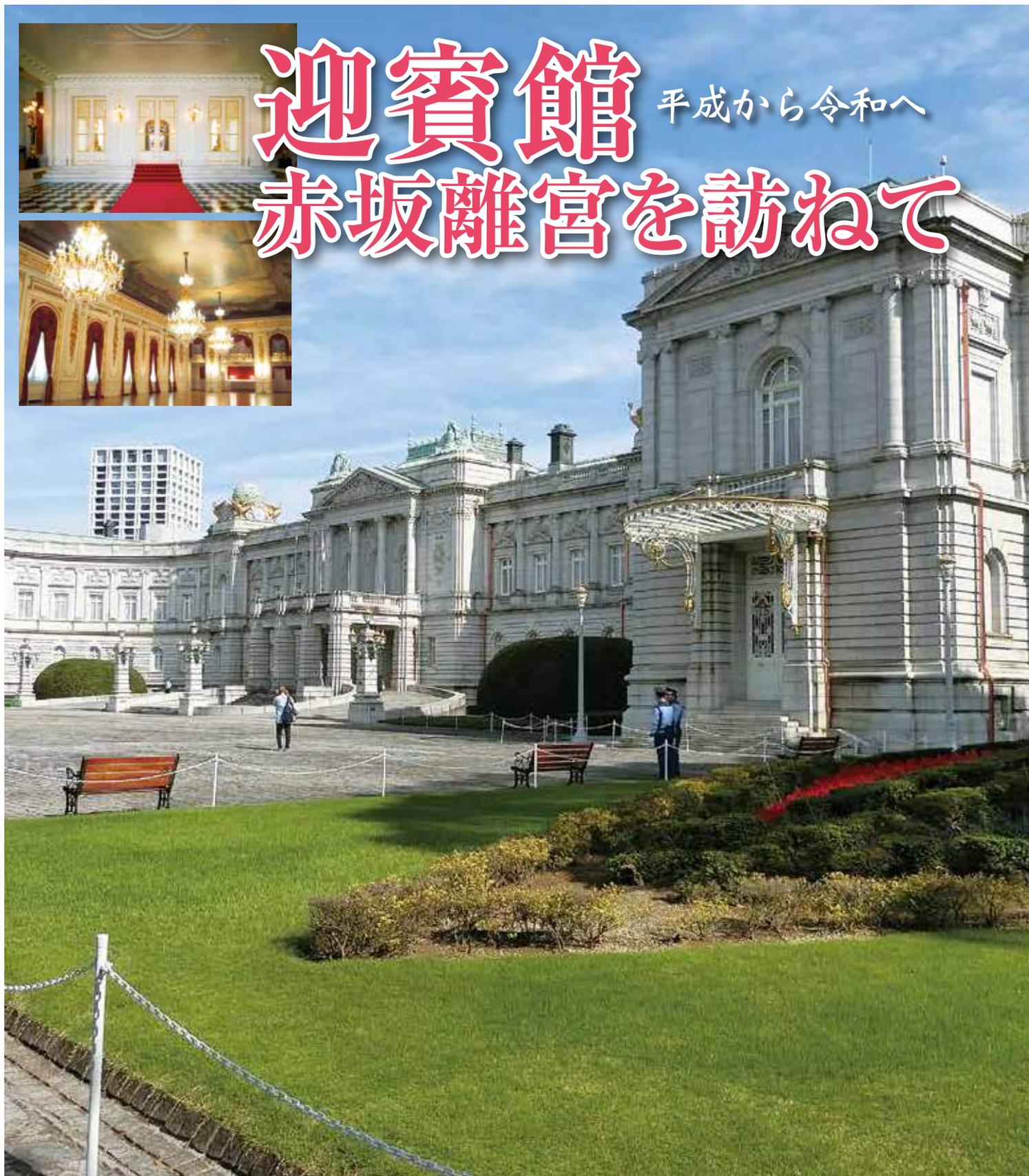
# Asuka

【あしび】

福山 葦陽  
東京同窓会  
広報誌  
2019

13

## 迎賓館 平成から令和へ 赤坂離宮を訪ねて



平成から令和へと元号が代わり国賓の歓迎行事などで目にする事の多い迎賓館赤坂離宮(写真:迎賓館ホームページより)



# 第32回

## 福山葦陽東京同窓会

福山葦陽東京同窓会会長

来山 征士

昨年10月21日(日)、神田「学士会館」にて第32回福山葦陽東京同窓会を開催致しました。福山本部からは定金孝幸新会長、事務局より門田恵子様、世良眞理子様、会計の水船美佐子様、そして昨年の本部総会実行委員長の井上亮様、近畿支部より宇田成徳支部長、本校からは小林泰崇校長、福山市東京事務所より山本正彦所長にもご出席頂き、毎年元気にご出席される県女卒の先輩方を含め77名の参加者となりました。新会長の挨拶には新しい同窓会の展望を感じ、近畿支部からは若い方の多数参加の報告、校長からは母校のグローバル化への加速の報告、そして昨年の7月豪雨の福山での被害状況が山本所長より説明があり、一日も早い復興を祈りました。懇親会は村上芳則副会長の乾杯でスタート、今年のアトラクションは以前も好評だった「福山・あしび知つとる検定」をパワーアップしテーブル対抗で行い、改めて郷里や母校、同窓会のことなどを再認識しました。最後には恒例の県女と葦陽の校歌斉唱でお開きとなり、大変有意義で楽しい総会・懇親会となりました。さて、今年はどうな同窓会になるのか今から楽しみです。

元号も平成から令和となり、第33回福山葦陽東京同窓会は、昨年同様神田「学士会館」で、10月20日(日)12時より開催致します。福山を始め全国からのご参加をお待ちしております。詳しくは【福山葦陽同窓会】ホームページをご覧ください。

### 第32回 福山葦陽東京同窓会



来山征士東京会長の挨拶



受付で小林校長をお迎え



会場への案内は若手の役目、ご苦労さまです



村上芳則副会長の乾杯



山本正彦東京事務所所長



小林泰崇校長



宇田成徳近畿支部長



定金孝幸 新会長



31、32、33年卒



24、25、26、27、28年卒



来賓の方々と19、23年卒



定金会長と一緒に36、39、40年卒



定金会長と41、42、43年卒



34、35、37、38年卒

# 平成最後の福山葦陽東京同窓会が開催されました。



司会は中山、福島の名コンビ



59年卒鎌野さん、広島県人会のご案内



56年卒井上さん、本部総会の報告



学年や立場を越え、あちこちで会話が...



45、47、48年卒



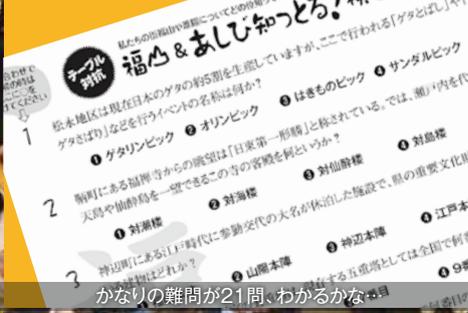
新会長さん、おめでとう！同級生は良えの〜



50年から60年卒の最若手



解答をスマホで調べる若手テーブル、ズレイ!



かなりの難問が21問、わかるかな〜



は〜い次の正解は、③番!



「知っとる検定」優勝は44、49年卒、21問全問正解!



ムムッ、ほれえ難しい...



多分正解じゃと思うと、ちいと自信はにゃーけどのう〜



県女卒の方々の校歌斉唱



24、25年卒の校歌「紅匂う」



葦陽校歌「島山の」を皆さんで

- 出席者 (敬称略)**  
●数字は卒業年 ※は福山より
- |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |          |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|----------|
| 田口 38 | 垣原 37 | 岩瀬 37 | 向井 36 | 来山 36 | 来山 36 | 井上 36 | 東上 36 | 伊地 35 | 中山 35 | 連石 34 | 開原 34 | 藤井 34 | 小川 33 | 吉井 33 | 池田 32 | 前原 32 | 三島 31 | 占部 31 | 来山 31 | 永島 28 | 大土 27 | 徳永 26 | 藤井 25 | 藤永 25 | 永島 25 | 市橋 24 | 石山 24 | 宮野 24 | 左山 23 | 北中 23 | 尼玉 23 | 山本 19 | 小林 19 | 福山市事務所 | 宇田 18 | 近畿 18 | 定金 18 | ●本部会長 幸幸 |
| 植村 14 | 掛谷 60 | 渡辺 59 | 鎌野 59 | 井上 56 | 福島 50 | 土田 50 | 彦田 50 | 小林 49 | 水船 49 | 森山 48 | 世良 47 | 寄國 47 | 寄宮 47 | 細谷 47 | 小池 45 | 池田 45 | 廣川 45 | 猪原 45 | 門田 45 | 古清 44 | 磯川 44 | 中山 44 | 神代 43 | 三谷 43 | 富澤 43 | 小藤 42 | 黒田 42 | 廣江 42 | 河村 41 | 村上 41 | 坂本 41 | 西丸 40 | 田丸 40 | 佐藤 40  | 坂本 39 | 三吉 39 |       |          |
| 崇由    | 一夫    | 義門    | 誠司    | 亮     | 博行    | 浩司    | 幸男    | 陽治    | 佐子    | 幸代    | 眞理子   | 雅子    | 郁子    | 永子    | 秀子    | 紀子    | 照樹    | 恵子    | 春子    | 茂子    | 志子    | 代子    | 敏子    | 豊美    | 眞澄    | 正子    | 眞理子   | 邦男    | 憲次    | 芳則    | 智和    | 直枝    | 知子    | 松枝     | 昭博    | 仲博    |       |          |



昭和  
28年卒

「葦陽東京二八会」が銀座一丁目店にて  
2019年5月17日  
(後列左から2人目が私です)



昭和  
28年卒

稲垣 欣之

(昭和28年卒・座間市)

■私達の世代は、世情や制度改革の節目々に遭遇して来ました。先ず昭和16年の国民学校令で尋常小学校から国民学校へ、昭和22年の学校教育法制度で新制中学の義務化・高校入学時の男女共学・小学区制・総合制と言う変革を経ています。

世情は、大東亜戦争・学童疎開・空襲・終戦・食糧難等の苦難を凌ぎながら、戦後の復興・神武・黄金景気の始まりから終わりまでを見届け、世界的なりーマンショックで社会生活を終了しました。

こうした中で、私達は古希・喜寿の記念集会を各々嵯峨・宮島で祝うことができました。この後は、東京近郊在住者と福山からの参加者を迎え、「東京

二八会」の集いを毎年1回継続しています。この集いは、来山・永島両世話役のお骨折りで、会食メニューにも気配りが行き届き、食事も十二分に楽しんでいきます。出席の人は、各々何等かの病歴を持ちながら病と共生し、淡々と実体のあるコトバで語り、懐かしい福山弁に気を和ませながら、交流を続けています。

今、人生百年の機運が各方面で芽生える中で、この会も同調させて行こうとの期待の兆しも見えて来ています。

昭和  
51年卒

## 還暦を迎えて



ヤマツツジ還暦記念植樹。後列左から3人目です



奥入瀬溪流

小山勢津子(旧姓 池田) (昭和51年卒・横須賀市)

■葦陽高校を卒業して40年以上の月日が経ってしまいました。私が青森にある大学に進学し、大学時代に両親が福山を離れてしまったため、福山は遠い所になってしまいました。そんな私にいつも同窓会の声を掛けていただき、今回はこの様に寄稿までさせていただく事になり感謝しております。4月から娘が社会人になり、子育ても終わりのよい私の活動する時がやってきました。現在は横須賀に住み、色々な所に出かけ、スポーツクラブで体力作りに励んでいます。

葦陽高校時代は何一つ皆さんのお手伝いをする事ができなかったことを申し訳なく思っています。大学では、ほぼ全員が親元を離れ2年生から3年間共同生活をしていました。現在の様に携帯電話もなく頼れるのは友達同士です。そこで妙に強い絆で結ばれて、還暦が近づく頃から集合する機会が増えてきました。最近では、5月18日に、「還暦記念植樹」のため青森のキャンパスに行ってきました。二十代の頃も、たくさん自然に囲まれて、奥入瀬溪流、八甲田山等を見てその美しさに感激しましたが、やはり年齢を重ねると感じ方が違うものだと思ったり、気持ちは一瞬で学生当時に戻ってはしゃいでしまったり、楽しい時間を過ごしました。学生時代の仲間は素晴らしいと思います。

これからはお世話になった葦陽高校同窓会に微力ながら参加させていただきます。よろしくお願いたします。

昭和  
59年卒

## 仕事と趣味の二刀流

鎌野 誠司 (昭和59年卒・江戸川区)



40年近く続けているライブ。左端が私です



ブルーのマウンテンバイクで通勤



私の職場

■1984卒年の鎌野と申します。私は今、東京のインターネット通販企業でサブライチエーンのラストマイル配送の品質管理の仕事をしています。

外資系の企業なので、入社当初は私も文化の違いに驚きました。例えば、上司部下問わず「さん」付けで呼ぶことだったり、勤務時間が完全フレックスで出勤時間も退勤時間も休日も自分でスケジュールを決めて仕事をするところだったり、就業中の服装が自由なところだったり。大半の社員がTシャツにジーパンで仕事していて、夏になると社長がアロハに短パンで歩いていたりします。その代わり仕事は少数精鋭主義で、かなりのタフさとマルチなスキルを求められますけどね。

さて、私の趣味は音楽と自転車です。東京で出会った仲間とバンドを組んで、今でも月1回くらいのペースでライブをやっています。私がバンドを始めたのが葦陽高校在籍のころなので、かれこれ40年近く続けている趣味であります。今のバンドでは1970〜90年代のヒット曲を中心に選曲して演奏しています。

もう一つの趣味の自転車の方ですが、今の愛車はブルーのマウンテンバイク。街乗りが中心なので段差などを気にせずガシガシ進んでいけるところが気に入っています。天気がいい日は自宅からオフィスまで往復30kmを自転車通勤します。東京都内はビル街があつたり大きな公園があつたり、意外と坂道も多いので、走っていて飽きないですよ。

平成  
14年卒

## 偶然の出会い

内田 康隆 (平成14年卒・つくば市)



久しぶりに再会した同級生と@秋葉原 人文字はI・Y・O = 葦陽  
左から2人目が私です

■今年6月のとある平日、都内地下鉄で18年ぶりに高校の同級生に再会しました。高校卒業以来、まったく会っておらず、同じクラスにもなったことはなく、ただ隣のクラスで体育が一緒だったというくらいの関係だったので、お互い何度見かしたものの、思い出すのに多くの時間はかからなかったのには驚きました。

高校卒業後、筑波大学に進学しサッカーに打ち込んだ学生時代。大学卒業後は筑波大学大学院へ進学し、その後つくば市役所に入庁。内閣府への出向経験など非常に有意義な時間を過ごしてきました。

今年4月から市役所を退職し、都内の民間企業で働き始めました。これまでは市役所という住民サービスを中心とした仕事だったので、正直、福山や高校というのは出身という一つのステータスでしかありませんでした。これからはプロジェクトがあるところで活動できる立場となったこともあり、全国に視野を広げ、ぜひ福山にも何かしら関わられるプロジェクトができればと考えています。

ここに記事を書くことになったのも、最初に書いた電車での出会いがきっかけです。民間企業に転職してすぐに出会ったことから偶然ではなく会うべくして会ったと思っっています。電車で出会った後すぐに2人で飲みに行き、その場で東京近郊にいるメンバーと連絡をとり4人で会うことに。10年以上振りに会うメンバーでしたが、小学校からの同級生や、中学校からの同級生もあり、思い出や当時とは変わってしまった価値観を話したり、仕事のことを話したり、高時代とは違った非常に楽しい時間、あつという間に過ぎていきました。つくばという地に移り、これまで疎遠となっていました。こうした出会いから葦陽のネットワークを広げ、少しでも恩返しができるよう活動につなげていければうれしいです。

# 私の運命、めぐり合わせだと述懐しております

## ただ <sup>かいさく</sup> 多田 <sup>先生</sup> 偕作

[昭和55年～平成3年] 教科: 数学 昭和31年卒



葦陽高校校内での常任幹事会に出席

### 現在も常任幹事を務めています

同窓会の仕事は、母校に勤務することとなった昭和55年から現在まで続いています。

岩崎会長から小川会長への交代、久松台への移転、旧校地への記念碑の建立、新校地での同窓会館の整備や運営等の仕事を経験し、現在も常任幹事を務めております。

学校内の仕事では、葦陽に11年在籍しながら、学級担任を担当したのは2年間だけという珍しい経歴の持主です。

久松台への移転後復活した野球部の部長を経験し、土、日、祝日は遠征試合に明け暮れました。部員数が多い年もあり、大変な事もありました。担当するクラスの授業が遅れるため代休をとることも出来ず、しんどい時もありましたが野球が好きだったため、あまり苦にはなりませんでした。

そんな中、昭和62年、広島県高等学校同和教育推進協議会福山地区事

### 私

は、昭和28年から3年間福山葦陽高校で学びました。

昭和36年大学を卒業後、因島高校因北分校(昼間定時制)で1年半勤務、校内事情で本校への配置換えを命じられ、3年半勤務し、呉三津田高校(8年)、尾道北高校(6年)福山葦陽高校(11年)、東高校(通信制)で7年勤務し、平成10年定年退職しました。教科は数学です。その後、広島文化学園大学で10年余勤務しました。

### 多くの人とのふれ合いを経験

その後の大学での仕事は、大学生との接触や、広島県内はもとより、中国地区、四国地区の高校での先生方とのふれあい、意見交換や高校生徒の面談等、様々な楽しい経験をする事が出来ました。

振り返ってみますと、教師として一番大切なことは、生徒と接し、向き合うことで一人一人の持っている能力を引き出すことだという観点からみると、学級担任としての経験年数が少なく、残念に思うこともあります。私の運命、めぐり合わせだと今では述懐しております。

私と接してくれた教え子の生徒や、色々な人達との思い出を大切にしながら、病気とも闘い続け、もう少し生きたいと考えております。同窓生の皆様方も元気で頑張ってください。心を心から念じております。



旧校舎跡地の記念碑「陽の誌」



現在の葦陽同窓会館

しのはら みきお

# 篠原 幹夫 先生

〔平成12年～14年〕  
定時制 教頭  
教科：理科



## 仏像彫刻に魅せられて

仏像彫刻は、様々な仏様からその役割や特徴を学び、歴史的な背景を知り、その限らない奥の深さを学び、自身の生き様を考え問い直す場と思っています。

写真集「仏像彫刻こころの旅路」

### 章

陽高校への在任期間は定時制教頭として、退職直前の3年間のみでした。教科は理科ですが、定時制では学力面で課題が多いため2人制の授業が多く、サポート役として全ての教科を経験しました。丁度その頃、管理職は管理職業務に専念するよう県教委から指導がありました。様々な理由を付けては教壇に立っていました。逆境を乗り越えて苦学する生徒も多く、学ぶことの多い毎日でした。

同窓会との関係では、「福山葦陽同窓会作品展」に2度仏像彫刻を出品させて頂いた時、同窓生の芸術面でのレベルの高さや伝統的な組織の強さを痛感しました。私自身、母校戸手高校の同窓会で一昨年の百周年記念まで、30年近く事務局長や副会長など歴任しました。その間、至誠高校と戸手商業高校の統合があり、同窓会も一本化しましたが、新生戸手高校について校名や設置場所をめぐって、同窓生の間にも不協和音があることも否めません。百周年記念は記念誌の編集責任者として、思い出に残る記念誌を作成できました。

60歳で退職後は同窓会活動を除いて、教育の世界とは無縁の生き方をしています。野菜栽培、日本アルプスの縦走、海外旅行、国内旅行、古典文学学習、同窓会活動、町内会役員、古寺巡礼、仏像彫刻などです。

昨年5月、「仏像彫刻こころの旅路」というタイトルで写真集を発行しました。仏像彫刻は65歳から始め、毎週水曜日、自宅から往復5



朝日新聞に掲載された大日如来坐像(左)と蔵王権現

時間掛けて岡山市内で仏師の指導を受け12年目となります。岡山は第二の故郷です。

### ■ 仏像彫刻の魅力は次のように考えています

(一) 自身の作品は別として、一般的には、彫刻作品として、素材、形、姿、色、技術がすぐれていて、多種多様で奥が深く造形として優れていること (造形性、芸術性)

(二) 深く広い智慧と力で人々を救う最高の人格を持った仏を表現すること (目的)

(三) 一般的に、仏像は優れた技量や人格を持った仏師たちが力と情熱を傾けて制作しています。私のようなレベルの低い技量でも、それなりの情熱や人格の向上を心掛ける気持ちで彫刻に携わろうと心掛ける気持ちになれること (制作者)

(四) 信仰心に根差した人々の仏の世界への理解と生への願望が表現されていること (信仰心)

(五) 多くの人々が造像に関わり、大切に護ってきたという歴史があること (歴史性) などです。

従って、私にとって、仏像彫刻は単に芸術作品というよりも、様々な仏様からその役割や特徴を学び、歴史的な背景を知り、仏像彫刻の限らない奥の深さを学び、自分自身の生き様を考え問い直す場とっています。そのことを、「仏像彫刻こころの旅路」と表現してみました。

自校のミッションである「備後の伝統校として地域から愛され、新しい時代をたくましく生き社会に貢献する人材を育成する。」を踏まえ、原点に立ち戻り、常に前へ進むことを意識して、『チーム葦陽～前へ～』をキャッチフレーズにしました。

今年度からコミュニティースクール制度が導入され、今まで以上に生徒・保護者・教職員・同窓会・地域の方とスクラムを組み、外部の力を最大限活用すべく、学校運営委員会での議論をしながら教育活動を進めることとなりました。「目指す生徒像」：変化の激しい社会をたくましく生きるための社会人基礎力を身に付けた生徒を育成する取組を「タフ」と「グローバル」を柱にストーリー性をもって進めています。学校教育の中に「問題発見・解決学習」を常に取入れ、困難なことに対しても自ら主体的に対応できる「タフ」な生徒の育成を目指しています。また、毎年6月の2週間ハワイ州ワイパフ高校から生徒が来校し、2月には本校からワイパフ高校に行き、それぞれホームステイをしながら海外の生徒との交流を通して、国際感覚を培い、社会のグローバル化に対応できる生徒の育成を図っています。さらに、現2年生から大学入試が大きく変わることを受け、英語では4技能の習得に向けたGTECの資格試験を1・2学年全員で受験しています。

「地域から愛され信頼される学校づくり」、「福山葦陽高校で学んでよかったと心から思える学校」の実現のため、福山葦陽高校のさらなる発展を目指し学校経営に取組んでまいります。

本校に対して、皆様の一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

**今**年、6月14日(金)・15日(土)の2日間にわたって文化祭を開催しました。第1日目は、クラス対抗の合唱コンクールを実施しています。各クラスの個性が光り、素晴らしい歌声を響かせました。コンクールも5年目を迎え、年々レベルアップしており、入賞クラスのハーモニーは圧巻です。第2日目は、あいにくの大雨で、生徒たちにとって試練でしたが、自分たちが楽しむだけでなく、来ていただいた方に喜んでもらえるよう「もてなし」の工夫を凝らしたクラスの模擬店、イベントなどさまざまな発表を行いました。3年生にとっては高校生活最後の文化祭となり感慨深い2日間となりました。



### 3 葦陽祭

**例**年9月末に、赤青黄緑の4チームに分かれ、体育祭の時だけの応援団も作り、応援合戦を含め、各種目でお互いを競い、青春の汗を流しています。年々保護者の参観も増え盛り上がり来ています。



### 4 体育祭

#### ● 文化部

- 吹奏楽部
- ボランティア部
- 美術部
- 書道部
- 華道部
- 茶道部
- 写真部
- 漫画研究部
- 棋道部
- 英語部
- 放送部
- 家庭科部
- アコースティックギター部
- 自然科学部

#### 主な成績

- 書道部
  - 第25回国際高校選抜書展 入選2名
  - 第13回全国高校生書道S-1グランプリ まほろば賞 1名
  - 第24回全日本高等学校書道コンクール
  - 全日本高等学校書道教育研究会賞 5名
- 吹奏楽部
  - 第59回広島県吹奏楽コンクール A部門 銀賞
  - 第42回広島県アンサンブルコンテスト
  - サクソフォン三重奏 銀賞、金管八重奏 銀賞
- 美術部
  - 広島県高等学校文化祭・デザイン部門 奨励賞 1名
  - 広島県高等学校体育大会・デザイン部門 入選 2名



吹奏楽部    ボランティア部    美術部    書道部    茶道部    英語部    家庭科部    アコースティックギター部    華道部

福山葦陽高校の  
今年のキャッチフレーズ

# 「チーム葦陽～前へ～」

…「タフ」&「グローバル」を軸にカリキュラムデザインを鮮明化…

こばやし やすたか  
校長 小林 泰崇

近況

1

## 研修修学旅行

平成30年10月9日(火)～12日(金)

**研** 修学旅行での東京同窓会との交流も6回目となりました。初日にホテルの夕食会で東京同窓会会長さんに挨拶していただきました。事前に「あしび」を送っていただき、事前学習していたので、とてもよかったです。3年生で東京方面に行く生徒にも「あしび」を渡して、東京同窓会のことを再度伝えました。今後もこのような交流を続けていければと思います。



2

## 姉妹校との交流

**ハ** ワイ姉妹校との相互交流は、今年度で6年目を迎えます。今年も、2月に本校から6名の生徒と2名の教職員がハワイ州ワイパフ高校を訪問しました。この6月には、ハワイ州ワイパフ高校から7人の生徒と2人の教員を約2週間の滞在で迎え、授業や部活動、ホームステイ等を通して交流を図りました。ワイパフ高校の生徒による「国際理解講演会」では、ハワイの紹介やパフォーマンスを行い、本校生徒のハワイへの親密度も随分高まってきました。今後も生徒にグローバルな視野をもたせる学習機会として、一層の内容の充実を図りたいと思っています。



## 部活動状況

### ● 運動部

サッカー部  
ラグビー部  
野球部  
陸上競技部  
バレーボール部  
バスケットボール部  
バドミントン部  
テニス部

ソフトテニス部  
卓球部  
ソフトボール部  
柔道部  
剣道部  
水泳部  
空手道部  
弓道部

### ■ 主な成績

#### ■ 水泳部

第66回中国高等学校選手権水泳競技大会 男子100m・200m平泳ぎ第3位  
平成30年度広島県高等学校選手権水泳競技大会 女子総合第3位  
広島県高等学校選手権水泳競技大会 女子総合3位 男子総合6位

#### ■ ソフトボール部

平成30年度広島県高等学校女子ソフトボール秋季選手権大会 第3位  
第70回広島県高等学校総合体育大会女子ソフトボールの部 ベスト8

#### ■ テニス部

第71回広島県高等学校テニス新人大会 女子団体 第3位  
第58回中国高等学校テニス選手権大会 女子団体 第5位

#### ■ サッカー部

第97回全国高校サッカー選手権大会広島県大会 第3位



サッカー部

ラグビー部

野球部

バレー部

バスケット部

バドミントン部

テニス部

ソフトボール部

水泳部

# 令和

REIWA 01

新しい「令和」の年、  
福山葦陽同窓会開催



本年度当番幹事の皆さん



総会風景



会場風景



石原プロだって！

フリーアナウンサー  
藤田 弘之

俳優・歌手  
金見 憲史

対談  
talk

21世紀の石原裕次郎です  
…かな？



恩師と役員の方々



乾杯

乾杯 恩師江種先生



総合司会 57年卒 近藤文恵さん、62年卒 皿海 修さん



51年卒



37年卒



34、35年卒

## 令和最初の 総会を終えて

実行委員長  
昭和57年卒 山本武士



**令** 和になつての初めての福山葦陽同窓会総会・懇親会を東京より来山支部長のご臨席をいただき無事終えることができました。また今年度は、定金会長を迎えて初めての総会でもあります。例年以上に良い会になるよう実行委員全員で力を合わせ頑張りました。

当番学年の実行委員長として、本総会の準備を進める中、改めて多くの方々から支えられているという事を感じることができました。定金会長をはじめ副会長の方々の葦陽愛を感じながら活動に取り組むことができました。また、広告募集活動の時には、訪問先でお会いした先輩・同窓生から「ご苦勞様。同窓会の活動を期待していますよ」「高校の同級生どうしてるかな」など同窓会への期待、高校の思い出をあたかく語っていただきました。実行委員の中でも、62年卒、平成8年卒の皆さんから「協力します、楽しくやりますよ！」「と声をいただき元気を出して頑張ることができました。

今年度の開催内容について触れさせていただきました。同窓生の岡田明子さんの箏と柳井恵子さんのフルートを演奏していただきました。和と洋の調和のとれた素晴らしい演奏でした。そして、俳優・歌手の金見憲史さん（石原プロ）と同窓生の藤田弘之さん（フリーアナウンサー・平成4年卒）の対談で大いに盛り上がりました。金見さんは、福山出身で石原裕次郎の後継者としてテレビや映画で活躍中です。芸能活動の裏話や高校生時代の思い出話を藤田さんとの対談で楽しく紹介していただき、最後に「夜霧よ今夜もあがとう」を会場の皆さんと一緒に歌いました。福山葦陽高校吹奏楽部の演奏の後、懇親会はスタートしました。各テーブルで高校時代の思い出話、近況報告に楽しい時間を過ごすことができました。



受付風景



受付スタッフの皆さん



受付風景



57年卒 岡田明子さんの箏と  
47年卒 柳井恵子さんのフルート演奏



近畿支部長、東京支部長あいさつ



ブラズバンドの演奏後、懇親会はスタート



31年卒の多田偕作先生を囲んで



県女卒の皆さん



フィナーレは校歌斉唱



次年度当番にバトンタッチ

最後となりましたが、本同窓会開催に際し、お力添え頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。また、福山葦陽同窓会東京支部の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

## 2020年 総会に向けて

次回実行委員長  
昭和58年卒 神田量三



令和元年度  
同窓会総会冊子



### 2 020年総会の幹事を紹介します。

平成9年卒は、昭和53年1978年生まれ、成田空港開港や青木功プロの世界マッチプレー初優勝の年です。紙面の都合上、早生まれのトピックス紹介は割愛しました。

昭和最後の卒業となった昭和63年卒は、アポロが人類史上初めて月面着陸した昭和44年1969年の生まれです。

昭和58年卒は、福山城跡にあった葦陽高校の学び舎で2年を過ごし、その後、久松台へ。そして希望を抱き久松台から巣立った最初の卒業生となりました。

昭和39年1964年東京オリンピックの年に生まれ、「東京2020オリンピック」年の総会の幹事となります。今のところ特別な催しの考えはありませんが、アイデアをお持ちの方はお気軽に幹事まで声掛けをお願いします。

今年の6月総会は、箏とフルートの音色、大物俳優トークショー、在校生の吹奏楽に彩られ盛大に行われました。2020年の総会も皆さまに楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。久松台校舎で学んだ世代の私たちは、諸先輩方が紡いでこられた葦陽高校の歴史を、しっかりと次の世代へとつないでまいりたいと考えています。今後ともご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



## interview 若い世代にも 参加してもらえる 同窓会をめざし

昭和42年卒  
福山葦陽同窓会会長  
定金孝幸



インタビュー／平成4年卒 藤井佐織さん(左)と平成13年卒 中島結伊さん

■藤井 定金会長、福山葦陽同窓会会長、ご就任おめでとうございます。平成4年卒の藤井佐織と申します。本日は会長の人となり、平成13年卒の中島結伊さんと二人でお伺いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。まずはプロフィールをご紹介ください。

■会長 昭和42年に福山葦陽高校を卒業後、中央大学に進学しました。在学中に税理士の資格を取るために税経学院に通い、卒業後銀座四丁目の税理士事務所勤めました。当時は東京といっても、都心部をのぞけば、街並みは福山とそう変わらないものでした。せっかく東京まできたので、これぞ東京というところに勤めようと思いい、銀座になりました。

■藤井 ご実家は、福山の元町で万年筆店を営んでいらつしたとお聞きしていますが。

■会長 現在は、両親とも亡くなったので店は閉めています。今は元町になりましたが、当時は船町でした。天下橋の近くと言えばその頃は、ほとんどの人がわかるところでした。子供の頃は、天満屋付近や、旧市民会館、中央公園あたりでよく遊んでました。夏暑いときなど、家庭には今のように入アコンの設備がなかったので、天満屋へ行き、階段付近のソファでよく涼んでいました。

### 当時の思い出は…

■藤井 葦陽高校時代の思い出について教えてくださいいただけますか？

■会長 高校はラグビー部です。特に一年生のときは練習がきつかったですね。昔はクラブ活動に時間制限がなかったので、私たちラグビー部が

一番遅くまで練習していました。

■藤井 高校時代「恋」のロマンスは？

■会長 ないない。クラブ活動一筋の硬派でしたから(笑)。

■藤井 現在、税理士事務所を経営しておりますが、子供の頃に憧れた職業とかがありましたか？

■会長 子供の頃は、天文学者になりたかったですね。そのあと考古学者もいかなと思いましたが…。だから、今でも宇宙とか歴史の本はよく読みます。

■藤井 歴史を訪ねてのご旅行とかよくされるのですか。

■会長 私は、旅行は好きなのですが(笑)あまり行かないですね。して訪ねてみたいところと言えば、イタリヤのポンペイ遺跡と中国の西安の近くにある、始皇帝の兵馬俑です。

### 同窓会へのきっかけ

■中島 話は変わりますが、同窓会にかかわったきっかけを教えてください。

■会長 初めて同窓会活動の存在を知ったのは、30歳のときです。同窓会の事務局から、総会の当番幹事学年になるので会合へ出てくるようにと連絡があり、その翌年くらいに当時の小川会長より、常任幹事にと推薦され、その後同窓会本部の監査になり、創立105周年の前年に副会長の任を受け、昨年、前赤松会長より、会長職を引き継ぎました。大変身の引き締まる思いで責任の重さを実感しています。

■中島 私も、同級生のタレント杉原杏璃さんと平成30年度福山葦陽同窓会総会で対談させ

ていただきました。そして本部の常任幹事という役割をいただき、なにかお手伝いできればと思いい参加させていただいております。

■藤井 私も、今年総会の案内はがきを同窓生に送ったのですが、なかなか参加者がいなくて。

■会長 そうですね、藤井さんや中島さんの世代になる平成卒業の方の同窓会総会への参加は少なく、これからの課題とは思っていますが同世代の方はどう感じているのか教えてください。

■中島 私たちの同級生は、まだ子育ての真っただ中の人も多く、なかなか参加しにくい雰囲気はあります。

■会長 同窓会の総会も、参加してみると、思わぬ出会いにびっくりしたり、なつかしさに話はずんざんすることがあります。以前総会後の懇親会で先輩の席に、私が幼稚園の時の先生がおられました。今年の総会も、司会をされていた方が、息子の幼稚園の先生だったり。葦陽のネットワークが意外と身近にあることに気付けると楽しいものだと思います。

■藤井 では、新会長として、今後の同窓会の取り組みとしてはどのようなことを考えておられますか。

■会長 毎年総会には、福山在住の方だけではなく、遠方より多くの同窓生にお集まりいただき感謝しております。これからも、若い世代にも多く参加していただけるような同窓会をめざし、力を尽くしたいと思っています。藤井さん、中島さん協力よろしく願います。

■藤井 ■中島 会長の同窓会での活躍に期待いたします。本日はありがとうございました。

# 二年に一度の 同窓会

## 近畿支部—近況報告

支部長 宇田成徳(32年卒)

福山葦陽高等学校近畿支部同窓会は、平成30年9月30日に予定しておりましたが、台風の影響により、日程を変更し、12月9日にホテル阪神にて、開催。日程変更と年末開催にも拘らず、37名もご参加頂きました。福山本部より定金会長と事務局の世良常任幹事、水船会計、さらに來山東京支部長にご参加頂き誠にありがとうございました。

記念講演は、昭和59年卒業の金尾寛人さんにより、「将来展望 ～10年後の世の中は?」の題目で、これからの生活へのアドバイスを頂きました。アトラクションでは、「会員近況報告」で画像を使いながら最近の出来事や趣味などをお話し頂きました。次に、「備後(福山)弁を思い出そう!」では「備後弁かるた」を使い故郷を思い出しながら、ゲームを楽しみました。さらに、「懐メロ歌合戦」では各テーブルからと有志による思い出の歌で、大変盛り上がりしました。特に、アカペラでマリリンモンローの歌を歌われた柏原さんに魅了させられました。最後に、全員で校歌を歌い、学生時代を思い出しました。次回、オリンピックイヤーの2020年に皆さんとお会えるのが楽しみです。

# Kinki



会合は多田浩明さん(51年卒)と伊瀬知永子さん(59年卒)



宇田成徳 近畿支部長



來山征士  
東京支部長

定金孝幸会長



「将来展望 ～10年後の世の中は?」講演中の金尾寛人さん(59年卒)



懐メロ歌合戦時の柏原紀子さん  
(26年卒)



「備後弁かるた」作者は原田芳子さん  
(34年卒)、イラストはめいの  
KEIKOさん



会員近況報告  
藤林精二さん(51年卒)の趣味



東京から参加された池田朗子さん  
(32年卒)からのお土産のコースター



ホテル阪神

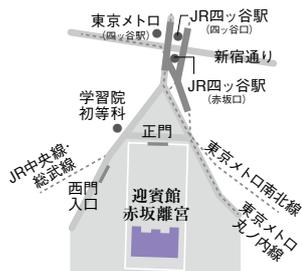


## 国宝 迎賓館

State Guest House  
AKASAKA PALACE

# 赤坂離宮を訪ねて

文：植村崇由 写真：寄國 聡 本館写真・文：内閣府迎賓館ホームページ



かつて紀州徳川家の江戸屋敷があった場所は、明治を迎え皇室に献上され、仮皇居などが設けられてきました。この土地の一角に、明治42(1909)年、東宮御所として誕生した日本で唯一のネオ・バロック洋式の西洋宮殿が、現在の迎賓館赤坂離宮の本館です。建物の両翼を前方に張り出し湾曲させた特徴的な設計。屋根には阿吽の鎧武者や天球儀を配

し、和の衣裳にもこだわって、明治期を代表する建物となりました。

戦後は国に移管され、日本と国際社会の関係が活発になる中で、昭和49(1974)年に迎賓館として蘇りました。現在は世界各国の来賓をお迎えする外交の舞台となっています。平成21(2009)年には、本館、正門、噴水などが国宝に指定されました。

### 東京同窓会会員有志で訪ねて来ました。



来山征士東京同窓会会長(36年卒)は迎賓館のボランティア説明員としても活動されています。日も館内を案内して頂きました。

### 東

京・四ツ谷周辺を訪れる時は必ずと言ってもいいほど目に入ってくる立派な建物があります。一度は行ってみたいなと思うもの

の行動することもなく今まで横目に素通りするだけでしたが、遂にその立派な建物「迎賓館赤坂離宮」を訪ねることにしました。

現在では外国からの来賓を迎えるための迎賓館として使用されているそうで、先日、アメリカ大統領のトランプ氏も招かれました。

今回訪問の機会ができたのは、東京同窓会会長の来山征士さん(36年卒)が10年に渡り迎賓館の説明員をされていることと、福島博行さん(50年卒)の呼びかけをきっかけに実現に至りました。

当日は四ツ谷駅に集合し、6月上旬でしたが強い日差しの中、学習院初等科を横目に駅から10分ほど歩くと迎賓館警備員の指示に従うまま正面からではなく正面向かって右側に設けられた西門入口から入場しました。入館前はここは空港かというくらい物々しいセキュリティを抜け敷地内に入りました。

館内の様子は掲載されている写真をご覧いただければおわかりかと思いますが、とても豪華絢爛です。どの部屋も「わーすごいなー」という感想しかでてこない感じではありますが、どう見ても完全な洋風建築の中に、鎧・兜、琵琶や鼓などの和の要素が盛り込まれているのは



## 玄関ホール

玄関ホールを通った賓客が、イタリア産の大理石の段部に赤絨毯が敷きつめられた中央階段を上がっていくと、金箔で彩られたアーチ状の美しい天井を仰ぎ見ることができます。



## 2倍大ホール・朝日の間

創建時は「第一客室」と呼ばれていました。ヨーロッパの宮殿の「謁見の間」に当たる部屋です。現在は、賓客のサロン(客間・応接室)として使われ、表敬訪問や首脳会談等も行われる迎賓館で最も格式の高い部屋となっています。入口両脇には、昭和の改修時に描かれた小磯良平の『音楽』と『絵画』の油彩画が飾られています。



## 彩鸞の間

現在は、鳳凰の一種である「鸞(らん)」と呼ばれる架空の鳥のデザインのレリーフがあることから「彩鸞の間」と呼ばれています。この部屋は、条約の調印式、首脳会談などに使用されます。



華麗な石膏金箔張りレリーフは、軍隊調のモチーフで、中には鎧武者などの和の要素も見ることができます。



## 羽衣の間

謡曲「羽衣」の景趣を描いた大絵画が、天井に描かれています。「虚空に花ふり音楽聞え、霊香四方(れいきょうよも)に薫ず」という謡曲「羽衣」の一節を、フランスの画家が描いたものです。絵の中では、まるで建物の中庭から、空を見上げたかのような情景が広がっています。赤やピンクの花が舞うなど、まさに天女が地上に降り立った直後のただならぬ空の様子が描かれています。



## 花鳥の間

重厚な雰囲気にも包まれた部屋「花鳥の間」の名は、天井に描かれた油絵や壁に飾られた七宝焼が花や鳥を題材にしていることに由来しています。かつては「饗宴の間」と呼ばれ、現在では主に公式晩餐会が催されるほか、記者会見の場として使用されています。



晩餐会の催される花鳥の間には四季の草花の中で戯れる鳥を表現した30枚の七宝が飾られています。



晩餐の席を飾るにふさわしい天井画



全面砂利敷きの「主庭」には、見事な大噴水を見ることができます。大噴水の周りには季節の花が咲き、参観の記念にこの大噴水越しに本館の撮影が人気だそうです。



フォード大統領やエリザベス女王、ゴルバチョフ大統領など、歴史に名を残した名だたる人物の記念植樹もお見逃しなく。



本館中央部屋根には、左右に一對ずつ青銅製の兜(かぶと)、鎧(よろい)、をつけている武士像があります。阿吽の仁王のように、宮殿を護っているように見えます。



金色の星を散りばめた天球儀と金色に輝く鳳凰、そして五七の桐の紋章が飾られています。「桐」は、古代中国の神話に出てくる鳳凰が止まる木とされており、昔から神聖なものとしていました。こうした風習が日本にも伝わり、日本でも天皇の衣類などに使われるなど、皇室のみが利用できる格式ある紋章として使われていたそうです。



「国宝 迎賓館赤坂離宮」鳥瞰図

本館正面玄関の扉。上部には菊の紋章が、扉中ほどには五七の桐の紋章が掲げられていて、この扉から賓客が入館します。



## 参観ご希望の方へ

- ❖ 迎賓館赤坂離宮では、外国からの賓客の接遇に支障のない範囲で一般公開を行っています。
- ❖ 迎賓館の参観は、「迎賓館赤坂離宮」で検索の上、事前予約いただくほか、事前予約なしで当日受付でもご参観いただけます。
- ❖ 混雑時は、事前予約をされた方の受付が優先されます。
- ❖ 急遽接遇を行う場合には、予定されていた一般公開が中止になることがありますので、お出かけ前に必ず下記「当面の公開日程カレンダー」をご確認ください。
- ❖ 参観料金については参観料金のページにてご確認ください。

<https://www.geihinkan.go.jp/akasaka/visit/>



帰りは正門から出て、迎賓館を後にする

興味深いなと思いつながら参観しました。中央階段にある壁画の、朝日と夕日の対峙による歓迎とお見送り、中でも迎賓館前庭からの外観はとても面白く、皆様も訪れる機会があったらよく目を凝らして見てください。一見、左右対称のように作られています。屋根の上に装飾されている甲冑姿の武者や、壁にかかるレリーフが異なるデザインになっています。それぞれに込められた想いがあるようですので、ぜひ実物を観に行かれてはどうでしょうか。私もまだ気づいていない制作意図などが他にもありそうなので再訪したいなと思っています。

令和元年。日本史に新たな一行が追加されるこのタイミングで良い経験をさせてもらいました。感謝します。

最後に余談ではあるのですが、迎賓館へ向かう電車内でなんと、平成14年葦陽高校卒業以来になる18年ぶりに同期生と再会をしました。お互い学校で会う程度の仲でしたが、ちゃんと覚えていたんですね!! しっかり連絡先の交換をして再びの再会を約束しました。詳しくは4頁のクラスメイトレターをご覧ください。

東京で葦陽の繋がりを強く意識した楽しい1日になりました。

文/植村崇由

# 祝 米寿

八十八歳



56名の媪(おうな)と翁(おきな)

福山県女・福山誠之館

## 『合同米寿祝賀の会』

(昭和24年・25年卒)

卒業以来70年後の『米寿祝賀の会』が、平成30年10月14日(日)福山市鞆の浦・鷗風亭において開催された。福山区を中心に、西は山口県、東は関東地区より男女56名が久しぶりの参集である。

我々同期生は、昭和24年卒(旧制5年卒)と昭和25年卒(高校3年卒)とにそれぞれ別れて卒業している稀な同期生である。終戦後マッカーサー司令部の占領政策の教育行政の一環として全国で実施された、いわゆる6・3・3制度のためである。このために我々は各地の高校に転校させられた。

当日は朝より晴天であり、『米寿祝賀の会』を天も味方してくれた。会は11時よりコーヒータイムで各地よりの参集の男女が旧交を温めた。

それぞれ80余年の風雪を潜り抜けた顔は翁・媪であるが、心は青春時代そのもので仲間同士が昔話に花を咲かせて、時間のたつのも忘れ歓談をした。

12時30分よりの親睦会では各地区の代表よりの近況報告・抽選会・各校の校歌等を合唱し、15時30分頃これからの同期会の益々の発展を祈念して解散した。

その後は男女有志が宿泊し、楽しい歓談を夜遅くまでして、翌朝名残惜しくも別れ、各地の帰途についた。

なお我々の『米寿祝賀の会』の模様の記事が2019年1月16日の中国新聞のセレクトに掲載された。

昭和25年卒 占部健夫



# 福山城の魅力を 今によみがえらせ 後世に伝えたい



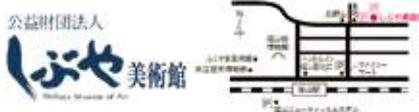
福山城は、初代藩主水野勝成が譜代大名として「西国鎮衛」の使命を担って入封(にゆうほう)し築き上げた城郭史上価値ある城で、2022年に築城400年を迎えます。その価値を今によみがえらせ、後世に伝えるため、天守の外観復元、史跡福山城跡の保存・整備、築城400年記念祝賀行事に取り組みます。市民の皆様をはじめ、福山にゆかりのある皆様、団体、企業の皆様のご寄附のご協力をお願いいたします。

## ■問い合わせ

福山城築城400年記念事業実行委員会  
(福山市文化振興課) 084-928-1117



廣安芳子さんと本部小丸順子副会長。お気に入りの「フラメンコ」(F100号)の前で



●JR福山駅北口より徒歩5分  
福山市本町8-27 ☎084-925-2113

## 福山市 しぶや美術館で 卒寿記念 廣安芳子展



みのり 花 花

美術館内



### ●プロフィール

- 1928年 広島県呉市に生まれる
- 1945年 昭和20年 県女 卒業
- 1951年 マチオ洋画会 発足
- 1954年 武蔵野美術大学 卒業
- 1982年 光陽会30回展 初出品
- 1984年 サージマルジズ賞 受賞
- 1984年 第4回アートワールド賞 受賞
- 1990年 光陽会会員 推挙
- 2004年 光陽会委員 審査員
- 2005年 日壊芸術交流ウィーン国際美術栄誉賞 受賞
- 2009年 キリシヤ修好110周年記念展 地中海大賞 受賞
- 2010年 エイズチャリティ美術展 佃堅輔芸術大賞 受賞
- 2013年 福山美術協会 理事 退任
- 2014年 光陽会名誉委員 功労賞 受賞
- 現在 マチオ洋画会 代表

廣安芳子さんは昭和20年に県女(葦陽高校の前身)を卒業されてから90歳を越える現在までずっと絵画の世界に邁進されています。福山市北吉津町にある観音寺の名誉住職夫人でもあります。今回の個展は「しぶや美術館」に出品を依頼され、元気に絵画制作が出来た事に感謝し、「卒寿記念」として40点を出品し色彩華やかな個展を開催されました。

「私は戦後から絵を描き続けて来まして、お寺の仕事と家事を済ませてから、夜キャンパスに向かうのが楽しみで、時間を忘れて絵を描いている日々でした。また、花が好きなので花の絵が多くて人物画は少ないのですが、今まで描いた絵の中で一番好きな絵は「フラメンコ」の絵です」とおっしゃって、ご夫妻共々お元気に卒寿展を開催出来た事を楽しんでおられる様子でした。

文／小丸順子

12号に **カンパを頂いた方々です。**

全国から多くのカンパと貴重なご意見と励ましを頂戴し、そして快く原稿をお寄せ下さいました皆様のお陰で、昨年12号を発行することができました。誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

福山葦陽東京同窓会会長  
来山 征士

恩師/井上謙二、福山葦陽同窓会本部、S18/花本光子、S23/宇田勢津子(福山市)、高比良欣子、S24/栗原紀久子、石山勝子、永島靖子、S25/藤井拓三、藤永政江、原田玲子、占部健夫、入江英代(福山市)、近藤正子(福山市)、S26/徳永 巖、S27/中江政子、S28/世良トセ、片岡禮子、長島志津子、来山和義、中島信義、永島直子、稲垣裕彦(宇治市)、S29/多田正志、小丸順子(福山市)、S30/柳井淑彦、森岡 辯、赤松治美(福山市)、S31/前原一夫、岡崎信之助(茨城県北相馬郡)、S32/宇田成徳(大阪市)、近本節子(福山市)、S33/小川敏彦、藤井栄治、S34/連石 勉、S35/渡邊昌信、前原美智子、土生谷フミ子、山本良三、真田和恵(福山市)、吉川由紀子、宮 真寿恵(福山市)、佐野禎信(北九州市)、伊地範子、細川ハテミ、S36/安達千鶴子(福山市)、加藤公恵、井上哲也、東早苗、日正美、松田恵子、来山征士、向井総昭、曾我登喜、菅 貞之(福山市)、S37/斎藤節子、岩瀬浩造、佐々木康之(福山市)、遠藤宏子、中村昭代(高槻市)、S38/梶原登茂子、田口寿美子、升川澄子、三吉伸子、高橋利暢(福山市)、S39/小野知行(福山市)、中島美代子、佐藤綾子、菅波孝人、S40/坂本智和、出原信江、児島志のぶ、西崎道子(福山市)、西 直枝、村上芳則、田丸佐知子、神原郁子、山本和子(福山市)、小林深雪(福山市)、S41/小玉美智子(西宮市)、正田典成、吉岡清八郎、S42/定金孝幸(福山市)、板垣速人、富澤真澄、由井由美子、S43/平田喜子(福山市)、岡本利男(福山市)、中山紀代子、S44/門田恵子(福山市)、廣川照樹、住谷敏日子、S45/佐藤 巧(福山市)、一安京子(福山市)、茶谷耕司ラグビー部有志山崎・藤本・桑田・茶谷(福山市)、小池秀子、細谷永子、宮本郁子(岩手県)、池田由紀子、佐々原聖子(丸亀市)、S46/香妻悦子、齊藤祐二郎、S47/杉原郁子、水澤加代子、世良真理子(福山市)、S48/寄國雅子(福山市)、相原謙一、長谷川由美子、S50/勝岡宏行(福山市)、成沢勝行、S51/藤井洋行(福山市)、S52/神原豊司(福山市)、S55/吉岡嘉尚、H5/土屋晃、H14/植村崇由、/大島能楽堂

(卒業年順、敬称略 2019年8月20日現在)

\*その他多くの方からご支援いただきました。

心より感謝申し上げます。

**「あしび」編集室 及び  
東京同窓会事務局**

東京同窓会に関すること、「あしび」に関することはこちらにご連絡下さい。

〒180-0006

東京都武蔵野市中町1-34-3-403  
(有ビッグバン内 あしび編集室)

**TEL 070-6965-3702**

〈東京同窓会事務局・あしび専用 寄國 聡〉

**FAX 0422-52-1596**

**e-mail: syorikuni@gmail.com**

**企画テーマ、投稿も募集します!**

『あしび』に掲載する記事や取り上げて欲しいテーマなどございましたらいつでもご連絡下さい。

**住所等の変更は本部HPからも  
できるようになりました。**

福山葦陽同窓会

検索

\*総会案内、「あしび」希望の方は必ずお知らせ下さい。

●平成30年度同窓会入会式



2月28日、葦陽高校を卒業される生徒さんの「同窓会入会式」が母校にて行われました。定金同窓会会長の挨拶の後、全日制の代表に続き定時制の代表が登壇し、「入会の言葉」を会長に渡し式は終了しました。卒業後は地元福山を始め各支部の総会・懇親会に参加し、多くの先輩方との交流を通じ、同窓生として認識を広げるよう学業に、仕事に邁進されるよう期待します。

●訃報、25年卒 大楽華雪さん死去



毎日書道会の理事を務め、中国・北京で書展を開くなど国内外で活躍した書道家、大楽華雪さんが6月に88歳で死去されました。「前衛」の名にふさわしい鮮烈な作品を常に発表しながら長年にわたり多くの書家を育て、書の普及に尽力されました。あしび7号で「書業60年」と題し銀座セントラル美術館での中国展に続き開催された日本展を紹介し、多くの同期の仲間にも囲まれた大楽さんを紹介しました。ご冥福をお祈りします。

●禅と庭のミュージアム、神勝寺



沼隈町の神勝寺は庭を散策しながら古建築から現代建築、禅画墨跡など禅の世界が体験できる「禅と庭のミュージアム」があり、境内のアートパビリオン「洗庭(こうてい)」は舟形のこけらぶきの建物でひととき目を引きまします。今回、COOL JAPAN AWARD\*2019を受賞。禅の広大な世界を五感で感じてもらいたい福山の魅力です。

●カーブ坊やと水野勝成がコラボしたTシャツ

2019年「水野勝成備後福山藩初代藩主入封400年」、2022年「福山城築城400年記念」とコラボした福山市とカーブとのオリジナルTシャツ。「赤」生地のTシャツ素材に、水野勝成の甲冑を身にまとったカーブ坊やのデザインをプリント、背面には福山城築城400年にちなんだ「400」の数字を背番号に見立てて大きく入っています。

お問い合わせは、有限会社めくま夢工房 084-922-4870  
info@numakuma-yume.com 価格2,600円(税込・送別)

胸面デザイン



●「鞆・一口町方衆」応援プロジェクト

人々の暮らしとともに、これまで脈々と受け継がれてきた鞆の歴史、文化・伝統を未来に繋ぐため、寄附を通じて鞆のまちづくりを応援するプロジェクトです。寄附金は、鞆の町並み保存や、歴史的な景観保全に係わる取組や、鞆の伝統文化を継承していくための取組を支援するために活用します。寄附していただいた方へは「鞆町方衆之証」カードの発行や、芳名板にお名前を掲載致します。寄附の方法等は <https://tomo-machikata.jp> で検索して下さい。

お問い合わせは、広島県地域政策局地域力創造課 市町支援・連携グループ 082-513-2614まで

シリアルナンバー入りステンレス製カード



●福山駅前キャスパ跡再開発がスタート!



7年もの間空きビル状態だった福山駅前「キャスパ」跡地の再開発が明らかになった。7月から解体工事に着手し、ビル3棟を新築、マンションや商業施設、ホテルやオフィスなどが入る。公園のような公共空間を設け、2023年度の完成をめざす。3棟の1、2階は一体的な商業施設に、北棟は地上22階、地下1階で、3、4階はオフィス、5～22階はマンションが入る。中棟は3～10階をオフィスフロアに。南棟は地上13階、地下1階で3～13階がホテルになる。駅に面した北棟には巨大な三角形の入り口と階段を設け、駅利用者の出入りを促す。

\*COOL JAPAN AWARDは、世界各国の外国人審査員により、外国人目線で客観的に「クール」と認められたものを「クールジャパン」として発掘・認定する制度です。

オーナーシェフ  
かねこ だいすけ  
**兼子 大輔**さん  
平成10年卒



1979年福山市生まれ。大阪ラ・ベカス、東京コートドールを経て渡仏。2012年南青山にL'ASをオープン。2013年に同じ南青山内へ移転、L'AS移転と同時にCORKをオープン。その実力は世界でも高い評価を得ており、2014年イギリスの高級グルメ雑誌「FOUR」主催の世界の若手ベストシェフに選ばれる。

〒107-0062  
東京都港区南青山4-16-3 南青山コトリビル 1F  
☎ 080-3310-4058  
17:30～22:00 L.O (23:30 CLOSE)



南青山フレンチレストラン

**L'AS**

【ラス】カジュアル&リーズナブルなお店

●● ご出身は、卒業後は？

平成10年に葦陽高校を卒業し、大阪の料理専門学校で学び、東京、大阪のお店で働いた後、フランスで1年半修業しました。帰国後麻布十番のフレンチレストランでシェフを務めて2012年に南青山にL'ASをオープンしました。店名の「L'AS」は、フランス語で「第一人者」の意味があり、「いろんなことに挑戦してあたらしい時代を作っていきたい」という思いを込めました。

●● この道に入るきっかけは？

特にきっかけはないです。実家もこの業界とは全く関係がなく、高校時代はあまり勉強もしなかったので(笑)、進学は考えてなかったです。料理の学校へ入るのは簡単でしたし、高校時代に駅前のファストフード店でバイトばかりしていたので、それがきっかけかも知れないですね。

●● 高校時代の思い出等は…

バスケットをやっていたのですが、先生方にはいろいろ迷惑ばかりかけてしまって、本当に申し訳なかったです。

●● 故郷や同級生との交流は？

東京に葦陽高校の同窓会があるのは知りませんでした。郷里にもあまり帰ることはありませんが、3～4年前に福山ニューキャッスルホテルで料理フェアを行ったときに友達や先生が来られて嬉しかったです。

●● フレンチは敷居が高いと思われがちですが…

カジュアルで、リーズナブルな値段と仕組みで、食事はディナーの1コースのみ5,000円。3週間ごとにメニューを変えて、来店するお客様のサイクルに合わせ「いかにリピートしてもらえるかが大事」と考えています。

●● 評判の南青山のお店に伺ってみたいになりました。

南青山のオシャレな街でカジュアルフレンチをご堪能下さい(要予約)。同窓会、クラス会などにも是非ご利用下さい。40名様までですが、どうぞ。



メニューは「おまかせ1コース」のみ5,000円



フォアグラのクリスピーサンドは人気の自信作



見学の出口は四ッ谷駅に近い正面玄関から

元は紀州藩徳川家中屋敷のあった場所

現在、迎賓館として使われている旧赤坂離宮は、元は紀州藩の中屋敷跡で、当時の皇太子明宮嘉仁親王、後の大正天皇の住居(東宮御所)として、1909(明治42)年に完成したネオバロック様式の建築です。明治期における最大の記念建築で、本格的な西欧建築様式を採用しながら、彫刻等の装飾にはわが国独特の様式、主題を採用し、精緻な工芸技術が随所に採用され目を見張ります。

**tokyo Ashibi 13**

令和元年8月31日発行(年1回)

発行人/ 来山征士(S.36)

編集担当/ 岩瀬浩造(S.37)、田丸佐知子(S.40)

制作担当/ 奇園 聡(S.45)

編集/ 福山葦陽東京同窓会役員会・幹事会

編集協力/ 福山葦陽東京同窓会会員、福山葦陽同窓会本部、福山葦陽高等学校、福山市東京事務所 他

**編集後記**

平成から令和へ元号が代わり、新たな時代がスタートしました。節目の年に、会員有志で元赤坂の迎賓館赤坂離宮を訪ねて来ました。絢爛豪華な建物の内部写真(迎賓館HPより)や庭を紹介しました。わが国の建築を代表するものの一つで、文化的意義の特に深いものとして国宝に指定されています。機会があれば一度訪問してみるのも良いでしょう。